保育の現場から

支えてくれている人の存在

渡邉満美

気づかずに支えられている

幼稚園の養護教諭として数年。ほかの幼稚園で養護教諭をしているという方には、なかなか出会えません。幼稚園の養護教諭としてどうしていったらよいかなど悩むこともたくさんあるのです。なぜ増えないのだろうか、近くにいたら相談できるのに……と思うこともあります。と同時に、近くで私をいつも支えてくれている人たちの存在に気づくのです。

ハートのおてがみ

けがの子どもの対応をしていると、年中児のY子が保健室に入ってきた。Y子が保健室に来るのは久しぶりだなあと思いながらも、今までの様子とは何かが違うという気がしていた。そう、いつものY子なら、顔を見るなり何か話し始めたり、近くに来て私の動きを見たりする。しかし、今日はY子の声や顔が、私の視界に入らなかった。なんだか変と思いながら、見回す

と私の左斜め後ろにいた。

W　「あら（ここにいたのね）」

Y子「Yちゃんね、ハートをつくったの」

W　「すてきね」

　そんなやりとりをし、後ろの**Y子**を感じながら、そのままほかの子どもたちと過ごしていました。ちょっとすると、後ろで違う気配を感じたので振り向くと、

Y子「おてがみを、かこうとおもうのね」

W　「誰にかくの」

Y子「Hせんせいにかきたいの」

W　「それは、すてきね」

そして、小さな声で

Y子「Yちゃん、じがかけないの」

　作ったハートを見せてくれました。ハートは赤いクレヨンで塗られていて、裏には絵が描いてありました。これでも充分よいのではと思っていました。字が書けなくても、文字にしなくても、伝わるものはあり、受けとめてもらえるはずよ、と思っていました。そんな思いと同時に、**Y子**の伝えたい思いは別のところにあるのかもしれない……

W　「先生が（字を）書いてもいいの？」

と聞き返していました。首を縦に振る**Y子**がいました。書き始めようとしたとき、一部始終を見ていた、年長児の**K子**と**A子**。

K子「え～、じ、かけないの」

W　「まだ、小さい組だもの」

K子「**K子**はかけたよ」

A子「**A子**も」

W　「そうかあ」

　普段なら「字が書けなくてもいいじゃない」など、焦らないで大丈夫というメッセージを伝えていたと思うのです。しかし、私が代わりに書くと決めたこと、

そして何よりY子の伝えたいという気持ちを、そんなやりとりを挟むことで中断したくなかったのです。二人のことはかまわずに、書くことにしました。

Y子「せんせい、こしょこしょばなしでもいいの？」

W「かまわないわよ」

Y子も、近くにいたK子とA子のことが気になったのでしょう。そんなやりとりに、何か言うかもしれない二人を見ました。しかし、何も言いません。何も言わない二人と目を合わせ、もう一度私もうなずきました。

Y子の声は、小さく最初は聞きとれませんでした。

Y子「Yちゃんは一人であそんでいます」

私たちの密やかなやりとりに何もいわない二人、書いてある文字を読み始めました。冷やかしのような感じを受けなかった私は、Y子の表情も見ながら書き進めていきました。

Y子「いっしょにあそぼうね」

Y子「Sちゃんがいるときは Sちゃんとあそびます」

そうか、今日Sちゃんは休みだった、とそこで気づきました。

Y子「Sちゃんがいないときはせんせいとあそびます」

ずっと見ていたK子とA子は、やっと一息ついたようでした。というより私がやっと一息ついた気持ちでした。書いてある文字を読んでいた二人の声はいつの間にか聞こえなくなっていたように感じました。しかし本当のところ、私の気持ちが二人に向かなかったために聞こえなかったのか、声を出さずに読んでいたのかはわからなくなっていました。ただ、私はどこかで、K子とA子は、読んだ言葉をかみしめていたのではないかと思っていました。一息つきながら、私は二人がここにいる意味を考えていました。この二人が、こんな思いを抱え過ごしている人がいることを感じ過ごす時間……。自分の弱い部分を人に出してもいいことを知り、その弱さを受けとめてもらいたいと伝えようとしている真剣な姿に出会えたことはよかった、と私は思っていました。

その二人が、

K子・A子「きっと絵をかいたらいいよ」

Y子は迷わず「うん」と答えていました。

二人は、**Y子**の気持ちを一緒に感じていた、私はそう思わずにはいられませんでした。そして**Y子**は、この二人から絵を描いた方がいいと言われたこと、うれしいことだったのでは……と考えていました。**Y子**の「じがかけないの」に対して、返事のような「え～じ、かけないの」という言葉。その言葉を言った**K子**と**A子**が、絵を描いたらいいと言うようになるなんて……私は「うんうん」と、うなずいていました。

もしかすると、**K子**と**A子**の「きっと絵をかいたらいいよ」は、空いているところには絵！　と、単純な一言かもしれません。しかし、**Y子**の気持ちも入れた方がいいよ、という意味の言葉だと思うと、とても優しい言葉に聞こえてきました。もし、途中で二人がその場を離れていたら、この言葉を聞くことはできませんでした。

ハート型の裏は赤くクレヨンで塗られていたため、下敷きになる紙にハート型の紙を載せ、鉛筆で書いていました。空いている空間にも鉛筆で絵を描き、**Y子**はもう一度書いたものをしっかり見るために、ハートを持ち上げたとき、そこには文字と絵が映し出されていました。それを見た瞬間、四人一緒に「わ～」と声を上げ、気持ちが重なり合ったような瞬間でした。ちょっと明るい気持ちになりました。

A子「ハートとか星とかもいいんじゃない」
Y子は、まだ空いているところに何を書こうか考え、
Y子「先生、ブタでもいいかなあ」
やっぱりハートや星は描かないのか……と思いつつ、
W　「うん、喜ぶと思うわよ」
　Y子はブタと、ていねいにハートと星も描きました。そしてハート型のカードを、作った封筒に入れました。
W　「Yちゃん、もっていける？」
　私は思わず聞いてしまっていました。**Y子**は「うん」と元気よく答えました。何だか安心する答えでした。さみしさを感じたりすることがこれからもあるかもしれない。でも、受けとめてほしい気持ちを表し、すでに自分の気持ちに向き合うことをしていた**Y子**。大丈夫と思えた一つの出来事でした。

かかわりから生まれる

　私はなぜ大丈夫と思えたのだろうか……。
　Y子が気持ちを表現できたこと、すでに自分の気持ちに向き合っていたこと、幾つかのことが重なり合って大丈夫と思えたのだと思います。しかし、何より人を頼りにするという、信頼感をもっているように思えたことがそう思わせてくれたのかもしれません。
　Y子は、**S子**が休みで、なんだか寂しく……。そんなとき、担任の先生を頼りに、支えにしていました。その寂しい思いを先生に伝えたいと**Y子**は思っていました。そして、偶然出会った**K子**・**A子**は手紙の思いが届きますように……と支えていました。私は三人それぞれが支えること、支えられることの心地よさを感じることができるようにかかわりました。生活の中では、支えてくれる誰かも、そして、その間をつないだり、支えたりしている誰かもいると思うのです。
　養護教諭はそんな、間をつないだり、支えたりしている役割もあるのだろうと思いました。

人は、人によって傷つけられる。
しかし、人によって癒される。

養護教諭仲間とそんな話をしたことがありました。

人は傷つけられたと感じるとき、悲しかったり、怒りだったり、寂しくなったりと複雑な気持ちになる気がします。傷ついて、自分ではどうしたらよいかわからなくなり、時にはこの気持ちから逃げ出してしまいたくもなります。けれど、逃げずに自分の気持ちと向き合い、乗り越えようと思うとき、または乗り越えるとき、そこには、その気持ちを支えてくれている人が誰にでもいると思うのです。ただ、誰にでもいる誰かは、いつもすぐ近くにはいなくて、今までのかかわりの中にいることがあるのではないかと思うのです。

何気ない日常、一人ひとり違う私たちが一緒に過ごしていれば、傷つけられたと感じることも、癒されたと感じることも一人ひとり違うこと。だから、私たちはわからないうちに傷つけてしまうこともある。そして、わからないうちにたくさん助けていたり、支えていたりしていることもあると思うのです。ただ、人が、相手を思う優しい気持ちは、どんなときも本当の意味での支えになると思うのです。

大人になり、その生き方・考え方が素敵だなあと思う人に出会ったとき、「子ども時代を豊かに育った人は、また豊かな人だと思う」と、私を支えてくれる人が教えてくれました。私も本当にそう感じるのです。

〝豊か〟の中には、楽しさだけはなく、辛く悲しいことも含まれているのでしょう。その辛く悲しいことから逃げずに乗り越えてきたことなどすべてが、豊かなものとなっていくのだと思うのです。そして、その豊かさの中には、人とのかかわりは欠かせないと思うのです。

今、出会っている子どもたちは豊かな時間をつくりあげているとき。その豊かな時間のほんのひとときを一緒に過ごす。子どもたちの大切な時間であることを忘れずにいたいと思うのです。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）